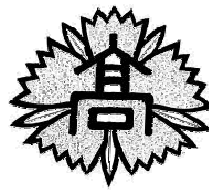


令和2年度

(2020年度)

学校要覧



三重県立四日市農芸高等学校

〒510-0874 三重県四日市市河原田町2847番地

TEL 059-345-5021

Fax 059-345-6996

URL <http://www.mie-c.ed.jp/ayokka/>

E-mail ayokkaad@mxs.mie-c.ed.jp

ISO14001

環境マネジメントシステム認証取得(農業高校全国初)



校歌

作詞 壽岳文章
作曲 大澤壽人

一、

歴史は古き河後に
生くるこの日をよろこびて
土に親しむあさゆうの
いのちをひらく智恵のかぎ
この河原田の学びやは
若うどわれらのこころのふるさと

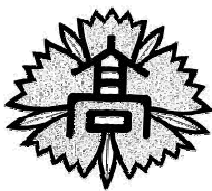
二、

柑橘みのる丘の上
夢多き日の眼をあげて
東を見れば海の青
さやけく胸にしみわたる
この河原田の学びやは
若うどわれらのこころのふるさと

三、

むかしローマのうたびどが
すべてに勝つとたたえたる
額の汗のたうとさを
知りて三とせの春と秋
この河原田の学びやは
若うどわれらのこころのふるさと

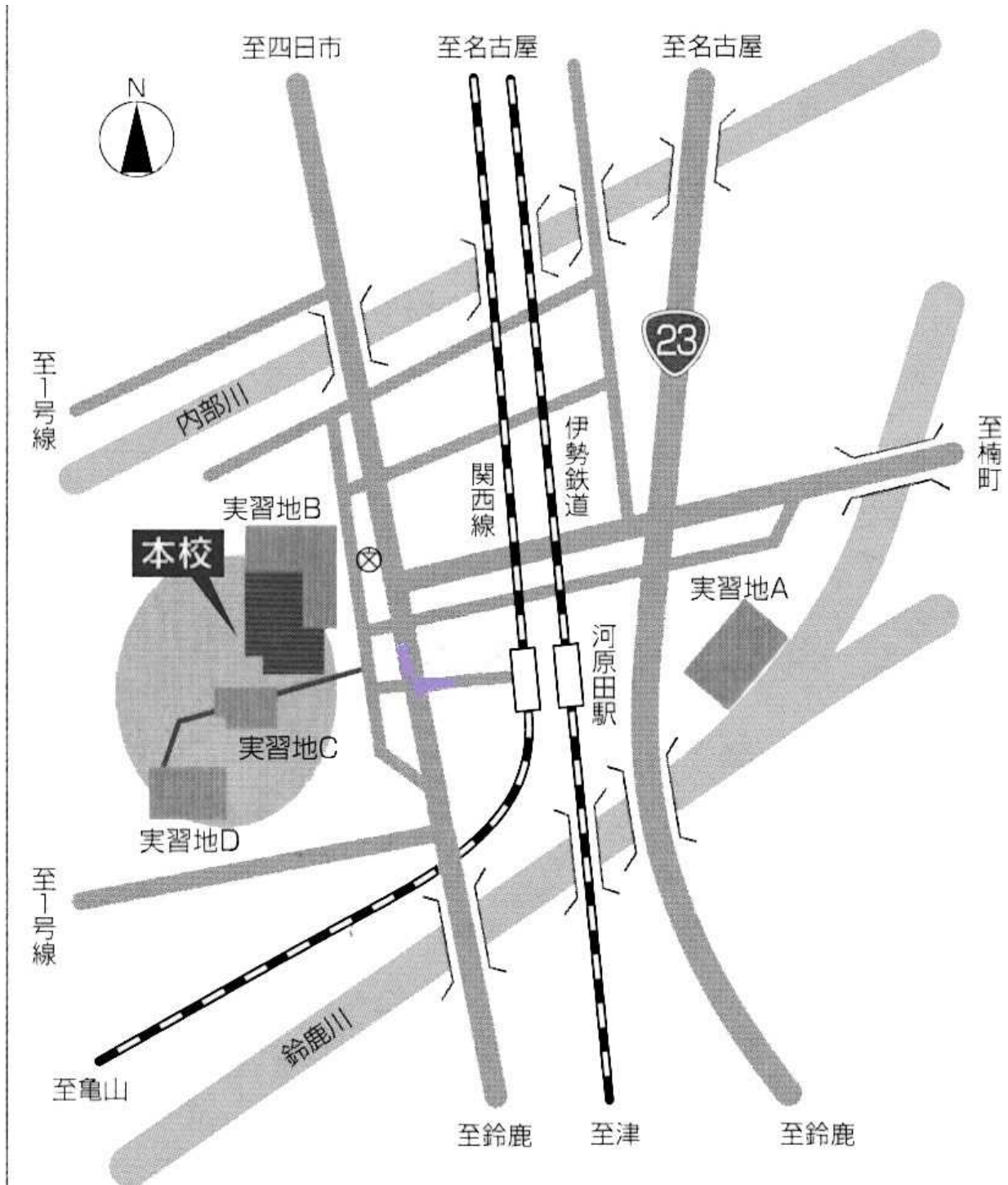
校章制定の由来



我が校は昭和25年4月、三重県立河原田高等学校と改称し、農業学科の他に新たに家庭科が設置された。

これを機に同年5月校章制定委員会を設けて職員生徒から校章の原案を募集し、応募作品中より全校投票によって現校章を採択決定した。意匠は農業学科を表す稲の穎と家庭学科を表す撫子の花を組み合わせ、中央に「高」の字を配したものである。

周辺略図



市外局番 (四日市059)

事務室(代表) 345-5021
 職員室(総務) 345-5022
 職員室(学年) 345-6460
 進路指導室 345-6461
 生徒指導室 345-6462
 図書室 345-6463
 URL <http://www.mie-c.ed.jp/ayokka/>

農場管理室 345-6466
 家庭学科職員室 345-6471
 体育教官室 345-6472
 温室管理室 345-6476
 FAX 345-6996
 E-mail ayokkaad@mxs.mie-c.ed.jp

1. 位 置

本校は、三重県四日市市河原田町2847番地に所在、JR東海関西線又は伊勢鉄道河原田駅下車徒歩7分の丘の上にあつて伊勢平野・伊勢湾を見下ろし、晴れた日は遠く知多半島、セントレアを眺望できる、四季緑に包まれた閑静な環境である。

2. 沿 革

昭和 4年2月21日	三重県立河原田農学校設立認可 鈴鹿農学校（明治45年創立） 三重農学校（大正4年創立）の両学校の生徒を再編して開校
昭和10年3月21日	学則一部改正第3学年を農科・園芸科に分科
昭和17年2月 2日	卒業期繰上げに伴い臨時補修科を設置
昭和18年4月 1日	三重県立農学校学則制定に伴い、農学科及び園芸科を設置
昭和23年4月 1日	畜産科を設置
昭和23年5月22日	学制改革により三重県立河原田農学校廃校
昭和23年5月23日	新学制により、三重県河原田高等学校として発足
昭和24年3月31日	三重県四日市高等学校河原田部となり 普通課程、農業課程を設置
昭和25年3月31日	三重県河原田高等学校と改称 農業課程、家庭課程を設置
昭和30年4月 1日	三重県立四日市農芸高等学校と改称
昭和37年4月 1日	農産製造科を設置
昭和48年4月 1日	畜産科を廃止、造園土木科を設置、 農産製造科を食品製造科と改称
平成 3年4月 1日	造園土木科を環境造園科と改編
平成 5年4月 1日	家政科を生活文化科と改編
平成 7年4月 1日	農業科を流通システム科、園芸科を緑花システム科と改編
平成 8年4月 1日	食品製造科を食品科学科と改編
平成15年4月 1日	農業学科4科を生産科学科、食品科学科、環境造園科、 園芸科学科に改編

歴代校長

昭和 4年 3月～ 8年 3月	小林英一	昭和47年 4月～56年 3月	伊達敏宇
昭和 8年 4月～ 9年 3月	槌賀安平	昭和56年 4月～59年 3月	石井潤次郎
昭和 9年 4月～16年 3月	立石恒四郎	昭和59年 4月～62年 3月	永田 勉
昭和16年 4月～19年10月	矢田 威	昭和62年 4月～	
昭和19年10月～21年 2月	大滝儀治	平成 2年 3月	森口 貢
昭和21年 2月～24年 3月	浅井政男	平成 2年 4月～ 5年 3月	別府銀孝
昭和24年 4月～25年 3月	福岡法重	平成 5年 4月～ 8年 3月	平井 卓
	部長 大河内陽雄	平成 8年 4月～11年 3月	佐々木玄雄
昭和25年 4月～26年 3月	下河茂嗣	平成11年 4月～13年 3月	瀧上要範
昭和26年 4月～27年 3月	田辺武男	平成13年 4月～17年 3月	井田俊彦
昭和27年 4月～35年 3月	栗林武男	平成17年 4月～23年 3月	竹尾 泰
昭和35年 4月～38年 3月	三輪勇四郎	平成23年 4月～26年 3月	竹森淳二
昭和38年 4月～43年 3月	佐久間正圓	平成26年 4月～28年 3月	辻 修一
昭和43年 4月～47年 3月	富田正秋	平成28年 4月～	田牧明浩

3. 教育目標及び重点目標

(1) 目指す学校像（基本理念）

共通教科並びに専門教科を通じた教育活動の充実に努め、専門技術者（スペシャリスト）を育成するとともに、心豊かな人間性を育み、地域社会に貢献する人材を育成する学校。

育みたい生徒像

- 農業科目や家庭科目への興味・関心を持ち、将来のスペシャリストとして、その進路実現のために専門的な知識・技能の習得をすすめている。
- 自ら進んで挨拶し、コミュニケーションをとることで、公共心、規範意識、人間関係を築く力、自尊感情を高めている。

ありたい教員像

- 目指す学校像実現に向けて、生徒指導力と学習指導力を高めることができる教職員。
- 生徒の無限の可能性を信じ、生徒に寄り添いながら自らも成長しようとする教職員。

(2) 中長期的な重点目標

教育活動

- ・基礎学力の充実と専門教科指導を強化し、生徒一人ひとりが持つ能力を引き出し、希望の進路実現につなげる。
- ・農業・家庭学科において将来のスペシャリストの育成と地域連携やインターンシップ等の活用を通して、より実践的な学習活動を展開する。
- ・心の教育や部活動を通して、規範意識を醸成し、生徒の自主性や個性の伸長を図る。

学校運営等

- ・教育相談や特別支援教育充実のための体制づくりをすすめる。
- ・中学卒業生徒の減少傾向が進む中で、中学生やその保護者にとって魅力ある学校づくりに務めるとともに、学校の将来構想・展望の検討をすすめる。
- ・専門高校の特色を活かした進学に向けた指導体制を確立する。
- ・組織の業務内容の見直し、総勤務時間の縮減に取り組む。

4. 農業に関する学科概要

(生産系)

☆生産科学科

栽培や飼育を中心とした食料生産や流通販売の分野に興味・関心及び意欲があり、高度な知識・技術を習得して将来その分野に進路を希望する人材を育成する。

☆食品科学科

食品の専門知識を高め、食の安全性や加工、流通販売の分野に興味・関心及び意欲があり、高度な知識・技術を習得して将来その分野に進路を希望する人材を育成する。

生産技術コース

農業生産の基礎・基本を学び、野菜を中心とした都市型農業や自然農法を通し、安全な食料生産技術の習得を目指す。21世紀は食料生産とともに地域社会を中心とした人間生活に注目が集まる世紀であるため、このコースで身につけた知識や技術を利用して都市近郊農業を中心とする農業経営者、農業技術者、地域社会で活躍する人材を育てる。

販売情報コース

食料の流通や販売に関する知識や技術を習得し、流通販売に不可欠な情報処理について学ぶ。自ら生産・加工した食品の管理・販売計画・広告宣伝等のマーケティング技術を身につけ、インターネットを利用し、情報を適切に収集、処理、発信できる人材を育てる。

食品科学コース

食品となる農産物を有効に利用し、安全な食品を提供するための食品製造・食品成分・微生物・衛生管理に関する知識や技術を学習する。更に、地元地域の食品関連産業と連携した校外実習を通して実践力を養い、将来、食品業界を担う人材を育てる。

(環境系)

☆環境造園科

都市計画や造園、都市環境の改善や自然環境の保全等の分野に興味・関心及び意欲があり、高度な知識・技術を習得して将来その分野に進路を希望する人材を育成する。

☆園芸科学科

観賞植物の栽培や活用、生活環境の改善や自然環境の保全等の分野に興味・関心があり、高度な知識・技術を習得し、将来その分野に進路を希望する人材を育成する。

造園技術コース

和風・洋風庭園や緑豊かな都市空間の創造に必要な知識、技術を学び、造園に関する国家資格を取得し、地域で活躍するランドスケープのエキスパートを育てる。

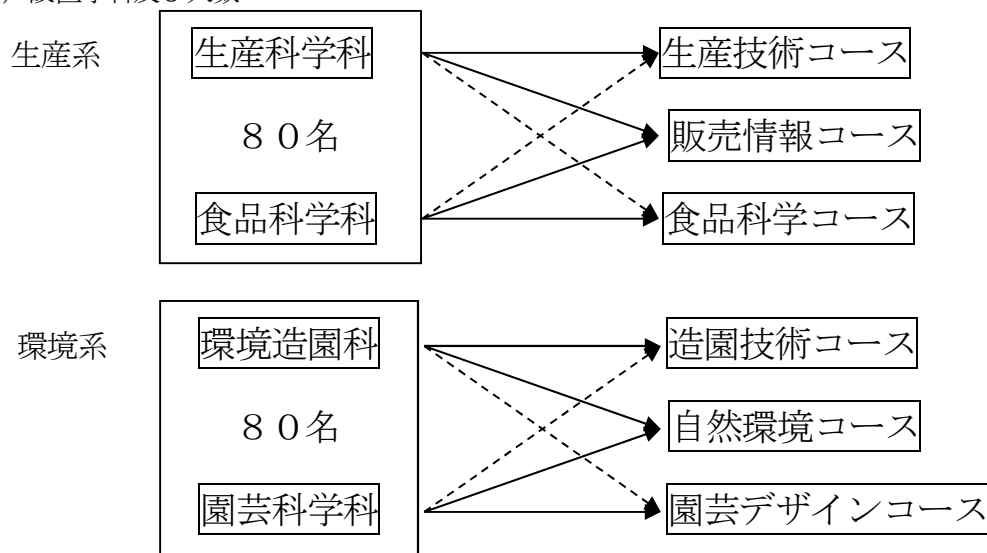
自然環境コース

「自然の尊さ」や「人と自然の共生」について、体験を通して理解することを目的としている。このコースは、自然環境の保全や野外活動に意欲のある人に向けており、卒業後は、大学への進学や環境に関わる技術者を目指し、地域の自然環境を創造するリーダーを育てる。

園芸デザインコース

草花などの観賞植物の栽培について、関係する知識や技術、活用方法を実践的に学習する。これらを通じて社会に貢献できる能力を育み、幅広く園芸分野や関連分野等で活躍できる人材を育てる。

(1) 設置学科及び人数



(2) 取得できる検定・資格等（検定・資格等の名称）

農業技術検定 2 級・3 級 大型特殊自動車運転免許（農耕用） 毒劇物取扱者 危険物甲種 危険物取扱者乙種第 1 類～6 類 ガス溶接技能講習修了 アーク溶接技能講習修了 フォークリフト運転技能講習修了 造園技能士 2 級・3 級 玉掛け技能講習修了 小型車両系建設機械特別教育終了 園芸装飾技能検定 3 級 フラワー装飾技能検定 3 級 ボイラー技士 2 級 食品衛生責任者	日本情報処理検定情報処理技能検定 1 級・2 級 文書デザイン検定 1 級・2 級・3 級 ビジネス能力検定（B 検）3 級 ビジネス文書検定 3 級 全経電卓計算能力検定 2 級・3 級 全経簿記 日本語ワープロ実務検定 1 級～4 級 情報検定（J 検）情報活用 3 級 プレゼンテーション作成検定 1 級・2 級・3 級 生物分類技能検定 3 級・4 級 移動式クレーン リテールマーケティング検定 3 級 食生活アドバイザー検定 3 級 カラーコーディネーター試験
--	---

(3) 学校農業クラブ活動

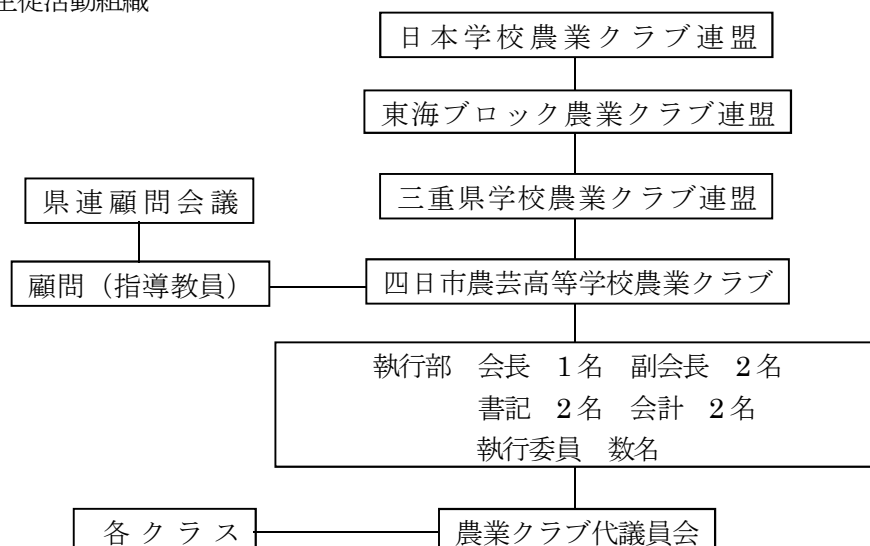
①指導目標

学校農業クラブ活動を通じてクラブ員の個性の伸長をはかるとともに、農業自営者・関連産業従事者などの産業人としての資質を高め、明日の地域の発展に寄与できるように創造性と実践力を養う。

②指導方法

- (ア) 指導性を高める：各行事に積極的に参加し、他と協調しながら集団の中でリーダーシップが取れる能力を養う。
- (イ) 社会性を高める：広い視野をもった幅広い人材を養い、公共に奉仕できる資質を育成する。
- (ウ) 科学性を高める：自己の進路に対する考えに基づき専門的な能力と技術を向上し、地域社会の生活環境を改善する能力を養う。

③生徒活動組織



④年間行事

4月	役員選挙 1年生オリエンテーション	8月	東海ブロック大会
5月	県連代議員会 総会	10月	全国大会
6月	校内意見発表会	11月	農芸祭 年次大会
7月	上級位検定 各種技能検定	12月	プロジェクト発表校内大会
	県連幹部講習会	1月	プロジェクト発表県大会
	意見発表県大会	2月	会報発行 県連代議員会

5. 家庭に関する学科概要

☆生活文化科

(1) 学科の目標

衣・食・住、福祉等の家庭生活に関する基礎的知識と技術を習得させ、日本の生活文化を尊重し、国際的な視野をもって、生活関連産業で活躍する豊かな想像力を持つ人材を育成する。

(2) 各コースの目標

第2学年からは、4つのコースに分かれて各専門科目を学習する。

食物経営コース

食物に関する知識と技術を習得させ、これらに関する職業に必要な技能と実践的態度を育てるとともに、時代に先駆ける豊かな食生活を創造する能力を養う。

製菓衛生コース

製菓・製パンに関する基礎的な知識・技術を身につけ、これらに関する職業に必要な技能と実践的態度を育てるとともに、潤いのある食生活を創造できる能力を養う。

服飾経営コース

服飾に関する知識と技術を習得させ、これらに関する職業に必要な技能と実践的態度を育てるとともに、時代の変化に対応できる豊かな感性と創造力を養う。

生活福祉コース

福祉に関する知識と技術を総合的に習得させ、これらに関する職業に必要な実践的態度を育てるとともに、時代の変化に対応できる創造性や福祉の心を育成する。

(3) 専門科目

1年生で学習する専門科目

家庭総合、生活産業基礎、生活産業情報、フードデザイン、ファッション造形基礎

2年生、3年生で学習する専門科目

食物経営コース

フードデザイン、調理、食品、食品衛生、生物活用、生活産業情報、課題研究

製菓衛生コース

フードデザイン、調理、製菓・製パン、食品衛生、生活産業情報、課題研究

服飾経営コース

ファッションデザイン、服飾手芸、ファッション造形、染色、生活産業情報、課題研究

生活福祉コース

住環境、フードデザイン、地域コミュニケーション、社会福祉基礎、生活と福祉、介護福祉基礎
生活支援技術、子どもの発達と保育、コミュニケーション技術、生活産業情報、課題研究

(4) 取得できる資格（授業の一環として）

<共通> 全国高等学校家庭科技術検定 被服製作4級
全国高等学校家庭科技術検定 食物調理4級
日本情報処理検定協会 日本語ワープロ検定 1級まで受験可能
日本情報処理検定協会 情報処理技能検定 2級まで受験可能
民族衣装文化普及協会着付け初級講師（3年課題研究）

食物経営コース

食生活アドバイザー検定3級
全国高等学校家庭科技術検定 食物調理3級・2級・1級

製菓衛生コース

製菓衛生師受験資格（希望者）
食生活アドバイザー検定3級
全国高等学校家庭科技術検定 食物調理3級・2級

服飾経営コース

毛糸編み物技能検定4級
色彩検定3級
リテールマーケティング検定3級

生活福祉コース

日本赤十字社救急法救急員
日本赤十字社幼児安全支援員
日本赤十字社健康生活支援員
福祉住環境コーディネーター3級
保育技術検定
家庭看護技術1級
音楽・リズム表現技術4級
造形表現技術4級
言語表現技術4級

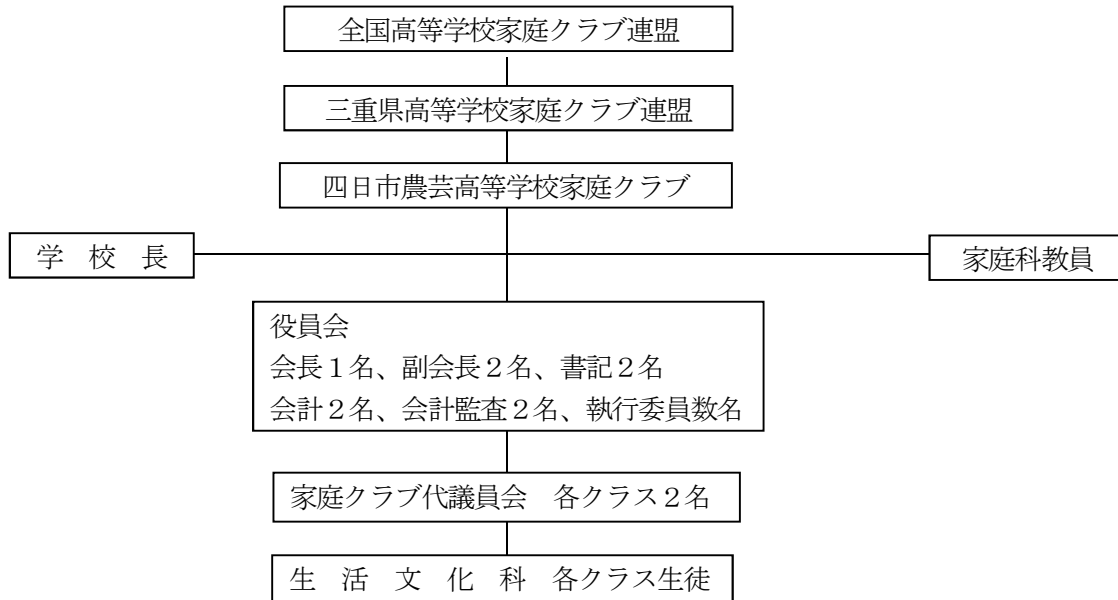
(5) 学校家庭クラブ活動

高等学校で家庭科を学習する生徒で組織、地域社会の家庭生活の改善向上をはかる活動を行う。
基本的精神として「創造」「勤労」「愛情」「奉仕」の4つの柱を掲げている。

①目的

- (ア) 会員相互の友情を深め、家庭クラブの発展をはかる。
- (イ) 家庭科に関する興味を深め、家庭科の学習を確実に身につける。
- (ウ) 協力・共同などの社会性を培い、社会に奉仕する態度を養う。
- (エ) 社会の一員として、より良い社交性を身につける。

②組織・会員は生活文化科生徒である。



③年間行事計画

4月	前期役員選挙
5月	県連第1回代議員会、総会、家庭クラブ週間、奉仕作業
7月	全国高等学校家庭クラブ研究発表大会
8月	河原田地区講習会、県連指導者養成講座、県連第2回代議員会
10月	県連家庭クラブ研究発表大会、後期役員選挙
11月	農芸祭参加
12月	校内ホームプロジェクト発表会
1月	お茶淹れ講習会
2月	機関誌発行、県連第3回代議員会

6. 学習内容紹介

【環境教育】

四日市農芸高等学校は、平成14年度に全国の農業高校で初めて、ISO14001を認証取得しました。その後、全教職員で環境マネジメントシステムの維持・改善を行い、学校教育の中に環境活動、地域とのコミュニケーションを積極的に取り入れた**環境教育**を展開しています。

環境目的・目標の重点項目として、『環境教育』を掲げ、生徒に「想像力」「行動力」「理解力」の3つの力をつけるために、各教科・コース別に具体的な環境教育プログラムを実践しています。

環境週間(6月)・・・「学校環境デー」を設定し地域の美化・清掃活動等を実施しています。



「学校環境デー」(地域の清掃活動)

環境月間(11月)・・・全教職員で「環境教育の実施」。また農芸祭(非公開日)食品バザーでの「リユース食器」を導入したゴミ減量の取り組み、環境講演会の開催等を実施しています。



「農芸祭・リユース食器・ゴミ減量の取り組み」

今までの活動において、地域をはじめ各方面より高く評価をいただいております。

表彰実績

- 【マネジメントシステム永年認証表彰】(平成27年11月)
- 【日本環境経営大賞 優秀賞】(平成21年6月)
- 【率先実行大賞 グランプリ】(平成19年2月)
- 【地球温暖化防止活動 環境大臣賞】(平成18年12月)



自然環境コースでは毎年、四日市市水沢町にある「四日市市少年自然の家」で校外実習を行います。ここで里山に関わる講習と保全のための実技指導を受けます。この実習では、「環境保全」活動の基本的な考え方と技術を実践的に学ぶことができます。

「里山保全活動の様子」



【地域との交流】

毎年本校1年生の240名と河原田小学校1～3年生との人権学習の一環としての交流を行っています。各コースの実習体験（作物の収穫やもの作りなど）やレクリエーションを中心に交流しています。この体験により、高校生と小学生がふれあうことでお互いに豊かな人間性を育むことができています。

園芸科学科では、地域に貢献できる人材の育成を一つの教育目標として、学習機会を設けています。平成27年度から鈴鹿サーキットの園内に、F1グランプリや8時間耐久ロードレースに向けた模様花壇を作成しています。また、四日市市役所と連携して四日市駅前花壇の定植を定期的に行っています。これらの花壇苗は、生徒実習で種まきから栽培したものを使用しています。

そして、生活文化科**食物経営コース**では、地元の農業に従事されている女性グループの方々に、地元の食材を使って「郷土料理」「豆腐作り」「梅干し漬け」を教えていただき交流を深めています。卒業制作展では生徒が作った料理を生徒自身が制作した「万古焼」の器に盛り付けて展示し、地場産業に触れ地域に対しての興味関心を育んでいます。

更に、生活文化科**生活福祉コース**では、地元の保育園や学童保育所、高齢者介護施設などを訪問し、交流を通して多くの経験を積んでいます。



「田植えで交流」



「郷土料理講習会」



「万古焼の器を使った卒業制作」



「すくすくサロン」

【起業・ベンチャー教育】

農業学科**販売情報コース**では地域に根ざしたベンチャービジネス学習の場として店舗（みのりの丘マーケット）を月1、2回（年8回程度）開設しています。地元農家の方々やJA三重四日市河原田支店と連携をとり店舗の運営を全て生徒が行い学習しています。

「みのりの丘マーケット」



【プロジェクト学習】

専門高校では、生徒が課題を設定し自ら研究学習をする「プロジェクト学習」というシステムがあります。この研究成果を競い全国大会も開催されています。その学習の一部を紹介します。

希少な食材「マコモタケ」の商品開発を地元地域と連携して、生徒自らがその食材の奥深い魅力を学習し広く世間にPRするとともに販売戦略について研究しています。**食品科学コース**では、三重県内で生産される「もち小麦」や地域の食材を使った商品開発などで地域農業の活性化に繋がるような活動をしています。また平成30年度には、三重県で行われた全国高等学校総合体育大会で活躍される選手の皆さんを応援するパンを開発、販売しました。

これらの研究について、農業クラブプロジェクト発表会で発表し、全国大会（鹿児島大会）への出場を果たしました。



「プロジェクト発表全国大会出場」



「全国高等総体スポーツ応援パン 販売決定」

【専門教育と資格取得】

卒業後に即戦力として社会に役立つ人材育成のため、様々な専門教育と資格取得に力を入れた教育を実践しています。**造園技術コース**では、春休みを利用して3日間造園現場の実習（インターンシップ）を取り入れています。将来の造園のエキスパート育成のため積極的に資格取得に向けた学習に取り組んでいます。



「造園技能士資格取得」



「フラワー装飾技能士資格取得」



「現場実習風景」



「園芸装飾技能士資格取得」

- 専門性の高い資格**
- 販売士検定3級
 - 2級、3級造園技能士
 - 2級造園施工管理技士（学科）
 - 小型移動式クレーン
 - 小型車両系建設機械
 - 3級フラワー装飾士
 - 3級園芸装飾士
 - 福祉住環境コーディネーター
 - 日本赤十字社救急法救急員
 - 健康生活支援講習支援員

園芸デザインコースでは切り花や鉢ものを活用した国家検定に取り組み、受検者はほぼ全員

が合格しています。

食物経営コースでは、「調理」「食品」「食品衛生」「フードデザイン」「生物活用」などを学び、食生活アドバイザー検定3級、食物調理技術検定1級の取得を目指しています。また、相可高等学校との交流授業、各種コンテストへの応募など、より実践的な機会を多く設けています。**製菓衛生コース**では学校設定科目「製菓製パン」の授業を柱に、「食品衛生」「フードデザイン」などを学び、外部講師を招き、より実践的な技術の習得に取り組んでいます。また、希望者は2年生の時、専門学校通信課程で学び、3年生で国家試験を受験し、在学中に製菓衛生師資格を取得しています。**服飾経営コース**では学んだ技術や知識を活かし、自分の体型にあった服や、自分でデザインをしたドレスを製作しています。また、白生地独自の柄を染めた反物で仕立てる、世界で1枚だけのオリジナル浴衣の製作も行っています。こうした取り組みから、校内、校外のファッションショーへの参加、各種コンテストへの応募など、活躍の機会がたくさんあります。また、毛糸編物技能検定や色彩検定にも取り組んでいます。**生活福祉コース**では社会福祉の基礎知識、介護技術、点字・手話、福祉レクリエーション、保育などの専門教育を行い、外部講師を招き実践的な教育を行っています。



「生徒作品」



「外部講師による授業」(製菓)



「生徒作品」



「浴衣の染色」



「健康生活支援員講習会」



「救急法救急員講習会」

7. 校地・校舎・施設

(1) 校地および実習地

種別		県有地 m ²	借地 m ²	計 m ²
校地	校内敷地	37,107		37,107
	運動場	17,422		17,422
	排水路用地	276		276
	小計	54,805		54,805
実習地	水田	11,318		11,318
	果樹園	1,251		1,251
	普通作物園	15,515	705	16,220
	校内農場 (通路・斜面含む)	7,528		7,528
	小計	35,612	705	36,317
合計		90,417	705	91,122

(2) 校舎・施設

区分	面積m ²	室名	階
管理棟	3,112	校長室、事務室、第一会議室、職員室、休養室、印刷室、保健室、宿直室、放送室、視聴覚室、購買、学校技術員室	1階
		作法室(和室・洋室)、生徒指導室、生徒会室、教室(5)	2階
		図書室、司書室、進路指導室、談話室、教室(6)	3階
農業理科棟	3,780	総合実習室、農場管理室、農場販売室、農業実習宿泊室、販売情報室、教育相談室、農機具整備実習室	1階
		食品化学実験室、応用微生物実験室、第一情報室 農業情報室、農業実験室	2階
		第二会議室、教室(3)、ゼミ室、英数国準備室、社会科教室	3階
		化学教室、理科教室、第1演習室、第2演習室、美術室	4階
家庭科棟	1,674	第1調理室、家庭科職員室、第2調理室、家庭経営室	1階
		被服室、家庭経営総合実習室、教室(2)	2階
		服飾デザイン室、家庭情報室、教室(2)	3階
環境造園棟	1,518	施工実習室、管理実習室、材料実習室、造園実習室	1階
		環境実験室、造園管理室、製図室	2階
		設計実習室、測量実習計数処理室、測量実習室、 計画造形実習室	3階
食品製造 農業科棟	1,627	食品製造実習室、食品管理室、漬物加工室、共同農具室 果実選果貯蔵室、肥料庫、ボイラー室	1階
		味噌製造室、こうじ製造室、菓子製造実習室、原料製品庫 器具庫、更衣室(6)	2階
		バイテク室、生物工学実験室、第二情報室、更衣室(6)	3階
体育施設	2,406	体育館、武道場、トレーニングルーム	
農場施設	3,091	農業機械格納庫、籾乾燥調整室、堆肥舎、サイロ、鶏舎 作業場倉庫、温室、水耕温室、ボイラー室、温室管理棟	
その他	557	部室等	
合計	17,765		

令和2年度入学生教育課程表

三重県立四日市農芸高等学校 農業学科

学 科 系 列 学 年 科/コース			農 業 学 科															
			生 産 系 列									環 境 系 列						
			1年			2年			3年			1年		2年		3年		
			生産 科学科	食品 科学科	標準単位	生産科学科	食品科学科	生産科学科	食品科学科	生産科学科	食品科学科	環境 造園科	園芸 科学科	環境造園科	園芸科学科	環境造園科	園芸科学科	
国 語	国 語 総 合	4	3	3						3	3							
	国 語 表 現	3			3	3	3					3	3	3				
	現 代 文 Ⅱ	4						3	3	3					3	3	3	
地 理	世 界 史 A	2	2	2						2	2							
	日 本 史 A	2			#3	# 3	#3					#3	# 3	#3				
	地 理 A	2			#3	# 3	#3					#3	# 3	#3				
公 民	現 代 社 会	2						3	3	3					3	3	3	
数 学	数 学 I	3	3	3						3	3							
	数 学 II	4			2	2	2	2	2	2			2	2	2	2	2	
理 科	科学と人間生活	2						2	2	2						2	2	
	化 学 基 礎	2	2	2								2	2	2				
	生 物 基 礎	2			2	2	2			2	2							
	地 学 基 礎	2													2			
保 健	体 育	7~8	2	2	2	2	2	3	3	3	2	2	2	2	2	3	3	3
	保 健	2	1	1	1	1	1				1	1	1	1				
芸 術	美 術 I	2	2	2						2	2							
外 国 語	コミュニケーション英語Ⅰ	3	2	2						2	2							
	コミュニケーション英語Ⅱ	4			2	2	2	2	2	2			2	2	2	2	2	
家 庭	家 庭 基 礎	2	2	2						2	2							
共通科目の単位数の計			19	19	15	15	15	15	15	15	19	19	15	15	15	15	15	
農 業	農業と環境	2~6	5	5						2	2							
	課題研究	2~6						3	3	3					3	3	3	
	総合実習	4~12	4 (1)	4 (1)	4 (1)	3 (1)	4 (1)	4 (1)	4 (1)	4 (1)	4 (1)	4 (1)	4 (1)	4 (1)	4 (1)	4 (1)	4 (1)	
	農業情報処理	2~6	2	2	2	2			2	2			2	2				
	作物	2~8			2			2										
	野菜	2~10			2			2										
	草花	2~8												4		4		
	農業機械	2~6			2													
	食品製造	2~8					3											
	食品化学	2~8					3											
	微生物利用	2~6					2											
	植物バイオテクノロジー	2~6												2				
	食品流通	2~6							2									
	森林科学	2~8											2			2		
	造園計画	2~10											4			4		
	造園技術	2~6											2			4		
	環境緑化材料	2~6											2	2			2	
	測 量	2~8											2					
	生物活用	2~5													2			2
	自然農法 (学)							2										
	都市園芸 (学)				2			2										
	アグリビジネス (学)					2			2									
	農業とインターネット (学)					2			2									
商品販売 (学)					5													
環境科学Ⅰ (学)										3	3							
環境科学Ⅱ (学)													2					
環境科学Ⅲ (学)																2		
ピオトープ (学)													2				2	
フラワーデザイン (学)																	2	
家 庭	食品衛生	2~4					2											
専門科目の単位数の計			11 (1)	11 (1)	14 (1)	14 (1)	14 (1)	15 (1)	15 (1)	15 (1)	11 (1)	11 (1)	14 (1)	14 (1)	14 (1)	15 (1)	15 (1)	15 (1)
総合的な探究の時間			3~6			1	1	1					1	1	1			
単位数の総計			30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	
特別活動 ホームルーム活動			35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	
週当たりの授業時数			31 (1)	31 (1)	31 (1)	31 (1)	31 (1)	31 (1)	31 (1)	31 (1)	31 (1)	31 (1)	31 (1)	31 (1)	31 (1)	31 (1)	31 (1)	
備 考			① #より各1科目選択 ② 時間割以外で実施するもの・・・農業学科 総合実習 1~3年各1単位 ③ 総合的な探究の時間3単位中、2単位は課題研究で代替 ④ 共通科目「社会と情報」2単位はその全部を専門科目「農業情報処理」で代替 ⑤ コース名「生産」は生産技術コース、「販情」は販売情報コース、「食品」は食品科学コース、「造園」は造園技術コース、「自環」は自然環境コース、「園芸」は園芸デザインコースをあらわす。															

令和2年度入学生教育課程表

三重県立四日市農芸高等学校 生活文化科

学 科 学 年 コ ー ス			家 庭 学 科								
			生 活 文 化 科								
			1年	2年				3年			
教 科	科 目	標準単位		食物 経営	製菓 衛生	服飾 経営	生活 福祉	食物 経営	製菓 衛生	服飾 経営	生活 福祉
国 語	国 語 総 合	4	3								
	国 語 表 現	3		3	3	3	3				
	現 代 文 Ⅱ	4						3	3	3	3
地 理 歴 史	世 界 史 A	2	2								
	日 本 史 A	2		#3	#3	#3	#3				
	地 理 A	2		#3	#3	#3	#3				
公 民	現 代 社 会	2						3	3	3	3
数 学	数 学 I	3	3								
	数 学 II	4		2	2	2	2	2	2	2	2
理 科	科学と人間生活	2						2	2	2	2
	化 学 基 礎	2		2	2	2	2				
	生 物 基 礎	2	2								
保 健 体 育	体 育	7~8	2	2	2	2	2	3	3	3	3
	保 健	2	1	1	1	1	1				
芸 術	美 術 I	2	2								
外 国 語	コミュニケーション英語Ⅰ	3	2								
	コミュニケーション英語Ⅱ	4		2	2	2	2	2	2	2	2
家 庭	家 庭 総 合	4	3								
共通科目の単位数の計			20	15	15	15	15	15	15	15	15
農 業	生物活用	2~5						2			
家 庭	生活産業基礎	2	2								
	課題研究	2~6						2	2	2	2
	生活産業情報	2~6	2	2	2	2	2	2	2		
	子どもの発達と保育	2~6					4				2
	子ども文化	2~8									2
	生活と福祉	2~8					5				3
	ファッション造形基礎	2~6	3								
	ファッション造形	4~10				4				5	
	ファッションデザイン	4~14				2				7	
	服飾手芸	2~4				2					
	フードデザイン	2~6	2	2	2			2	2		2
	調理	6~15			4	3			6	3	
	食 品	2~4			3						
	食品衛生	2~4			2	2					
製菓・製パン (学)					4			5			
染 色 (学)						3					
地域コミュニケーション (学)										3	
住環境 (学)							2				
専門科目の単位数の計			9	13	13	13	13	14	14	14	14
総合的な探究の時間			3~6		1	1	1				
単位数の総計			29	29	29	29	29	29	29	29	29
特別活動 ホームルーム活動			35	35	35	35	35	35	35	35	35
週当たりの授業時数			30	30	30	30	30	30	30	30	30
備 考			① #より各1科目選択 ② 総合的な探究の時間3単位中、2単位は課題研究で代替 ③ 共通科目「社会と情報」2単位はその全部を専門科目「生活産業情報」で代替								

1 1. 生徒に関する調査

令和2年5月1日現在

(1)ホームルーム別生徒数

学 年		1 年		2 年		3 年	
学 科	組	男	女	男	女	男	女
生産科学・食品科学	1	9	31	16	23	16	22
	2	10	30	16	24	15	24
環境造園・園芸科学	3	14	26	18	21	14	25
	4	16	25	18	22	14	25
生活文化	5	0	40	0	39	0	39
	6	3	37	3	36	2	38
男 女 別 計		52	189	71	165	61	173
学 年 別 計		241		236		234	
合 計		711					

(2)通学方法別生徒数

学年	通学方法	徒	自	J	私	バ	J	J	J	私	私	バ	そ	三	計
		歩	転	R	鉄	ス	R	R	R	鉄	鉄	ス	手	種	
1学年		14	86	36	0	0	12	9	68	0	1	0	15	241	
2学年		3	89	38	0	0	12	20	60	0	2	0	12	236	
3学年		1	88	32	0	0	10	7	87	0	1	0	8	234	
計		18	263	106	0	0	34	36	215	0	4	0	35	711	
%		2.5	37.0	14.9	0.0	0.0	4.8	5.1	30.2	0.0	0.6	0.0	4.9	100.0	

(3)通学時間別生徒数

学年	時間	15分以内	30分以内	45分以内	60分以内	90分以内	120分以内	121分以上	計
		1 学 年	36	60	76	48	17	3	
2 学 年	28	77	63	44	16	6	2	236	
3 学 年	29	65	84	30	21	5	0	234	
計	93	202	223	122	54	14	3	711	
%	13.1	28.4	31.4	17.2	7.6	2.0	0.4	100.0	

(4)通学経費別生徒数

月 学年	費用 円	不要	3,000	5,000	7,000	9,000	11,000	13,000	15,000	15,000 以上	計
		1 学 年	94	19	32	24	21	15	12	10	
2 学 年	92	4	44	43	30	7	7	4	5	236	
3 学 年	92	16	44	48	19	5	2	3	5	234	
計	278	39	120	115	70	27	21	17	24	711	
%	39.1	5.5	16.9	16.2	9.8	3.8	3.0	2.4	3.4	100.0	

(5)出身中学校別生徒数

市 町	中 学 校	1 年		2 年		3 年		全 校		合 計
		農業学科	家庭学科	農業学科	家庭学科	農業学科	家庭学科	農業学科	家庭学科	
桑 名 市	成 徳	3	0	1	1	0	0	4	1	5
	明 正	3	1	2	2	2	0	7	3	10
	光 風	0	1	0	2	2	0	2	3	5
	陽 和	5	1	3	3	5	6	13	10	23
	正 和	0	2	1	0	1	0	2	2	4
	陵 成	0	0	1	1	2	0	3	1	4
	光 陵	0	0	0	3	1	0	1	3	4
	多 度	2	1	1	0	1	0	4	1	5
	長 島	3	2	0	5	4	2	7	9	16
木 曽 岬 町	木 曽 岬	0	1	0	0	2	0	2	1	3
い な べ 市	北 勢	0	0	0	0	2	0	2	0	2
	員 弁	1	2	1	0	3	0	5	2	7
	大 安	1	1	0	0	0	1	1	2	3
	藤 原	0	0	1	0	0	0	1	0	1
東 員 町	東 員 第 一	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	東 員 第 二	0	0	2	0	1	0	3	0	3
四 日 市 市	中 部	3	0	0	0	3	2	6	2	8
	橋 北	0	1	1	1	0	1	1	3	4
	塩 浜	1	0	1	1	2	1	4	2	6
	港	1	2	0	1	2	3	3	6	9
	山 手	1	3	7	0	6	2	14	5	19
	富 洲 原	0	1	2	2	1	1	3	4	7
	富 田	5	2	5	2	2	0	12	4	16
	笹 川	8	2	7	6	5	2	20	10	30
	南	13	2	9	1	8	5	30	8	38
	西 陵	1	1	0	1	0	0	1	2	3
	三 滝	2	1	3	0	2	0	7	1	8
	大 池	2	2	0	0	2	1	4	3	7
	朝 明	12	3	5	0	10	1	27	4	31
	常 磐	3	1	7	1	4	1	14	3	17
	西 笹 川	0	2	4	1	4	1	8	4	12
	三 重 平	0	0	0	1	0	1	0	2	2
	羽 津	4	1	4	1	5	2	13	4	17
	西 朝 明	0	0	2	1	0	0	2	1	3
	桜	0	0	1	2	3	0	4	2	6
	内 部	18	5	17	4	13	6	48	15	63
楠	6	4	10	1	3	0	19	5	24	
菰 野 町	菰 野	2	1	2	2	1	4	5	7	12
	八 風	2	3	0	2	1	1	3	6	9
朝 日 町	朝 日	4	4	3	6	4	1	11	11	22
川 越 町	川 越	3	3	7	3	7	2	17	8	25
鈴 鹿 市	平 田 野	1	1	2	4	5	1	8	6	14
	白 鳥	4	0	6	1	2	3	12	4	16
	神 戸	15	8	12	2	10	6	37	16	53
	大 木	8	3	3	4	10	7	21	14	35
	千 代 崎	2	1	4	0	0	1	6	2	8
	白 子	3	3	6	3	7	6	16	12	28
	天 栄	2	1	2	1	0	0	4	2	6
	鈴 峰	2	1	2	0	1	2	5	3	8
	鼓 ケ 浦	1	0	0	1	0	1	1	2	3
創 徳	6	2	0	3	4	2	10	7	17	
亀 山 市	亀 山	2	0	3	0	0	1	5	1	6
	中 部	5	2	3	1	1	0	9	3	12
	関	0	0	1	0	0	0	1	0	1
津 市	豊 里	0	0	1	0	0	0	1	0	1
	朝 陽	0	2	3	1	0	1	3	4	7
そ の 他	1	0	0	0	1	1	2	1	3	
合 計		161	80	158	78	155	79	474	237	711

ISO14001 環境マネジメントシステム

環境理念

私たちは科学技術の発展のおかげで、たいへん便利で快適な生活を手にすることができました。しかしその一方で、限りある地球資源の大量消費やそれに伴う環境破壊が深刻化しています。このまま放置すれば、やがて人類は自分たちの身勝手な行為により自滅する危険さえ生じてきました。

私は、三重県立四日市農芸高等学校長として、美しく素晴らしい地球環境を後世に引き継ぎ守っていくために、日常の教育活動の中に導入した環境教育を充実させ、心豊かな人間性を育み、地域社会に貢献する人材を育成する学校を目指します。生徒の環境問題への関心を高め、自然や環境を尊重する態度や能力を養い、積極的な環境保全に取り組むことのできる人材を育成することを教育方針の一つとします。

そのため「環境マネジメントシステム」を構築し、実行することをここに宣言します。

環境方針

1. 環境教育の推進

三重県立四日市農芸高等学校では、目指す学校像（基本理念）に基づき、環境教育を推進します。

2. 環境に配慮した行動の推進

校地、建物、施設等で行うすべての教育活動の中で発生する環境への影響について、配慮を行います。そのため、環境負荷を低減するための環境目標を設定し、環境への影響をコントロールする「運用管理」を実施します。また、定期的にレビューを実施します。

3. 環境汚染の予防と環境保護

環境マネジメントシステムを構築・運用することにより、環境汚染の予防と環境保護に努め、システムを継続的に改善していきます。

4. 法規制などの順守義務

環境関連法令等を順守し、環境汚染の予防に努めます。

5. 継続的改善

環境マネジメントシステムを構築、実行、維持し、見直しを行い継続的な改善を実施します。また、全教職員が環境方針に沿った活動が継続的に実践できるよう研修等を実施します。

6. 開かれた学校

本校は、地域社会との連携を強化し、「開かれた学校づくり」を一層推進します。環境方針は、文書化し、組織で働く教職員、又は組織のために働くすべての人及び全校生徒に周知します。また、学校要覧、ホームページ等により広く校外に公開します。

2020年 4月 1日

三重県立四日市農芸高等学校 校長

田牧 明浩

